

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 西小倉 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

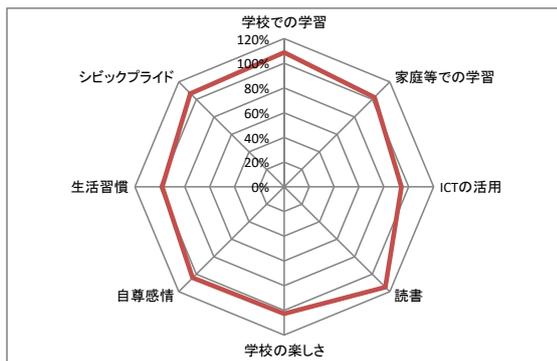
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	正答率について、全国正答率を多くの問題で上回った。全体を通して、無回答率は全国平均と比べて下回っている。全体的な傾向として「思考・判断・表現」を問う問題については、正答率が高い。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかを見る問題において、全国正答率を大きく上回った。	
	努力が必要な問題	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題において、全国平均をやや下回っている。図表やグラフを活用し、表現を工夫できる力を身に付けていく必要がある。	
算数	全体的な傾向や特徴など	正答率について、全国正答率を多くの問題で上回った。全体を通して、無回答率は全国平均と比べて下回っている。全体的な傾向として「思考・判断・表現」を問う問題については、正答率が高く、身に付けた基礎的な「知識・技能」を活用して問題を解くことがよくできている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題において、全国正答率を大きく上回った。	
	努力が必要な問題	正方形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題において、全国平均をやや下回っている。図形の意味や性質、公式等の理解を深めていく必要がある。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「友達関係に満足しているか」「自分にはよころがあると思うか」との問いに対して約90%の児童が肯定的に回答している。 ・「授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行ったか」という問いに対して、全国平均を大きく上回った。今後も自分も考えをまとめ、学びの振り返りを充実させていく。 ・「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っているか」の割合が、令和5年4月の段階では、やや低かった。令和5年度は、文部科学省のICTリーディングDX事業の指定を受け、本格的にICT推進の取組を行ったこともあり、令和5年度後半には、学校や家庭でのICT活用は改善された。今後も引き続き、学校の教育活動や家庭学習でのICTの積極的な活用を促進していく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

各学級において、学習規律を徹底させ、落ち着いた雰囲気の中で学習が進められるようにする。また、授業においては「めあて・まとめ・振り返り」を確実に行うとともに、話し合い活動や、自分の考えを書いたり、発表したりする活動の充実を図る。

- ・振り返りの視点を「にしこくまシート」を活用して示すことで、振り返りの習慣化、質の向上を図る。
- ・毎週水曜日の朝自習に「コグトレ」に取り組み、学力を支える認知機能の向上を図るようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・「自学ノートコンテスト」を年に2回行い、自主学習の成果を全校で紹介することで、自主学習に対する意識の向上を図る。
- ・「学校だより」や「ほけんだより」を活用し、規則正しい生活習慣の大切さを家庭に伝えるとともに、学級指導や保健指導を通して児童に指導していく。